

ラーニングテクノロジー開発室

ニュースレター

人とサイト

向後千春「独習用Web教材と研究ブログ (KogoLab Research & Review)」

2005年11月に開催された第3回WebCT研究会で、早稲田大学の向後千春先生による「eラーニングの土台」と題した招待講演があった。「eラーニング以前から、教育においてコンピュータが活用されてきた。そこには、その土台となる学習理論が存在していた。しかし、eラーニングの土台となる学習理論とは一体何だろう。」そんなところから話が始まり、代表的な三つの学習理論「行動分析学」「認知心理学」「状況的学習論」の特徴を簡潔にまとめて話された。そんな向後先生の研究室のサイト <http://kogolab.jp/mt/> の中から二つご紹介したい。

一つは向後先生が公開している「Web教材」である。向後研究室のサイトのメニューで「Web教材」をクリックし、公開されているWeb教材を見ると、「ハンバーガーショップで学ぶ楽しい統計学」、「ネコのぶきっちょと学ぶC言語」、「アフロ先輩と学ぶ実用文の書き方」といった楽しそうな教材のタイトルが並んでいる。

これらはPSI (Personalized System of Instruction) という自己学習型の授業で使うために向後先生が開発された教材である。教材の最初の方にはPSI方式の授業の進め方のポイントも書かれている。一般に公開されているので、是非、閲覧してみることをお勧めしたい。eラーニング教材をどのように作るかについてヒントを与えてくれるに違いない。

もう一つは研究ブログ*である。向後研究室のサイトのメニューで「(研究ブログ) KogoLab Research & Review」をクリックすると、向後先生の研究ブログ <http://d.hatena.ne.jp/kogo/> に行ける。

向後先生のブログでは、研究関連の話題、本の感想を扱っている。同業者(大学教員)であるからだと思うが、レビューされている本には興味深いものが並んでいる。向後先生のレビューを読んで、「買って読んでみようか」と思うものも随分ある。一度、このブログを訪れてみてはいかがだろうか(渡辺博芳)

* ブログは時事ニュースや専門的トピックスに関して分析や意見を公開する日記風のウェブサイトの総称。

NEWS

私情協 大学等電子著作物

権利処理事業のご案内

前号でもご案内いたしました私情協の電子著作物権利処理事業に、本学も大学として参加する方向で手続きを進めております。本事業参加により以下のことができるようになります。

1. オンラインシステムに登録されている教材、素材の利用
2. 個人・企業等の電子著作物を利用して電子著作物を作成する際の権利処理の依頼
3. 登録した自分の著作物がどの程度利用されているかの確認

本事業の詳細に関しては私情協のウェブサイト (<http://www.juce.jp/crdb/>) をご覧ください。

◆ 今後のLTセミナー

以下のテーマで開催を予定しています。詳細はポスターやLT開発室のウェブサイトにてお知らせいたしますので、そちらをご覧ください。

☆2月のLTセミナー

「自己学習力をつける授業

—これまでの取り組み これからの取り組み—
2/21(火) 13:30~15:00 本部棟2号館2F 201室

☆3月のLTセミナー

「PCが苦手な人のための教材作成入門(仮)」

3/16(木) 13:30~15:00

いずれも宇都宮キャンパスで行います

2月のLTセミナーでは自己学習力をつける授業の取り組みについて、これまでの事例を話題提供し、意見交換を行いたいと考えています。

3月のLTセミナーではお手軽にできる教材作成方法をご紹介します。ビデオデッキやOHCなどの設備の整っていない教室でも、設備のあるところと同様に授業を行うための方法についてとりあげたいと考えています。

※LT 開発室では、LT セミナーで扱ってほしいテーマを募集しています。電子メールなどでご連絡ください。

◆ 現代GPフォーラムが3月に開催されます

文科省では大学・短期大学・高等専門学校を対象に「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」を実施しています。今年3月には「平成17年度 現代GPフォーラム」が開催され、選定された各大学の取組発表が行われます。全国の優れた取組を知るチャンスです。ぜひご参加ください。詳細は文科省ウェブサイトで公開されます。そちらをご覧ください。

◆ 特色GPフォーラム報告

財団法人大学基準協会主催による平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラムが、2005年10～11月に会場を全国7ヶ所に移して開催されました。「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」は、大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定し、それらの事例を広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことにより、高等教育の活性化が促進されることを目的とする文部科学省による支援プロジェクトです。

本学からは、10月17日開催の横浜会場と11月23日開催の京都会場に参加しました。いずれの会場にも500名程度の参加があり、全国の大学の関心が極めて高いことがうかがわれました。そして、本学内における取組も組織性を強化することで、評価に十分値するを感じました。

◆ WebCT研究会報告

日本WebCTユーザ会主催「第3回WebCT研究会 in 福井」は2005年11月24日～25日に福井県立大学において開催されました。本学からは、渡辺博芳講師が一般セッションでの実践報告を行い、古川文人助手と大学院M2 鈴木崇君がポスターセッションでそれぞれ発表しました。

◆ IT教育実践セミナー報告

明治薬科大学主催による平成17年度IT教育実践セミナーが、2005年12月3日に同大学において開催され、IT教育に関する5件の講演が行なわれました。

上記3件の報告の詳細はLT開発室のウェブサイトからご覧になってください。

WebCT活用授業レポート

対面型授業を補完するWebCTの活用

今回は、理工学部電気・電子システム工学科の古井貞隆先生にお話をうかがいます。

LT 先生は、本学でのWebCTユーザー歴がもっとも長いお一人ですが、使い始めた理由は何ですか。

古井先生 講義科目の種類が多かったのも、それぞれの講義の内容項目を毎回記録に残しておきたいと思っていました。最初はカレンダーをうまく利用しようと考え、自分の確認用とするとともに、学生にも公開するところから使い始めました。また、課題を周知徹底させたいという理由もありましたね。今は、多くの授業で同じような使い方をしています。

LT なるほど、しっかりとコンテンツを作るところから始められたわけではなかったのですね。

古井先生 その後、教材のHTML化や問題の掲載などをLT開発室に依頼して、徐々に内容が増えました。今年度から、「幾何学」に講義ノートとして解説などを載せています。また、微分、因数分解、部分分数分解、ベクトルの内積と外積などの計算練習ができるWebMathematicaを使った教材を作り、「数学」や「物理学」のコンテンツからリンクしています。これらの科目では、作成したコンテンツを事前に公開し、対面講義の補助に活用しています。

LT お使いになっていかがでしょうか。

古井先生 複数の学科の学生からWebCTを介してレポートの提出があり、かなり活用できている様子が驚きました。WebCTを使うことに抵抗がない学

生は、こちらで準備したものをどんどん活用して勉強し、成績も伸びています。本当は、成績が伸び悩んでいる学生にこそコンテンツを見て自ら勉強してほしいのですが、WebCTにアクセスしたり、自習する習慣ができていないようで、期待したほどの効果がありません。残念なことです。

たとえば、アクティブシラバスを載せるとか、「情報基礎」で活用するなど、もっと多くの先生方がこのようなツールを使われることが、学習の習慣をつける意味でも重要だと思います。

便利という点では、課題や資料の提示開始や終了時期をあらかじめ設定できる点が良いと思います。この機能を活用したいというニーズは、先生方の間にもあるのではないのでしょうか。また、WebCTを使って学生の成績管理をしていますが、自宅からもそのデータにアクセスできるため、個人情報を持ち歩く必要がありません。個人情報保護法の観点から、非常に良いと思っています。

LT 自宅などからアクセスできるのは、学生だけでなく先生にとっても利点なんですね。どうもありがとうございました。

古井先生がご担当の「物理学3」「数学4」のWebCTコースを、コンテンツショーケースに登録していただきました。ぜひご覧ください。

編集後記 早いもので2005年度も終わりに近づき定期試験の季節となりました。あと2ヶ月もたてばすぐに新年度がやってきます。新年度も引き続きWebCTをご活用下さい。まだ使ったことはないが興味があるという方もぜひお声をかけてください。LT開発室が全力でサポートいたします。本年もよろしくお願い申し上げます。(及川)



ラーニングテクノロジー開発室連絡先 <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/>

宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 202室 028-627-7243 (直通)

◇室員：武井 恵雄(室長)、渡辺 博芳、古川 文人、高井 久美子、及川 芳恵

◇一般的なお問合せ：LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇技術的なサポート：LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

